

会議録  
令和4年度 第2回総合教育会議

- 1 日 時 令和4年12月20日（火曜日）  
午後3時～午後4時30分
- 2 場 所 中央図書館2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 市長 星野 光弘  
教育長 山口 武士  
委員 小野寺 巧  
委員 深井 美千代  
委員 横田 豊三郎  
委員 深野 はるみ
- 4 署名委員 教育長 山口 武士  
委員 深野 はるみ
- 5 説明職員 教育部長 磯谷 雅之  
学校統括監 小林 正剛  
学校教育課長 石井 勝博  
学校教育課小中学校  
連携教育推進担当課長 大竹 宏治  
学校教育課指導主事 矢場 友道
- 6 事務局職員 政策財務部長 水口 知詩  
政策企画課長 齊藤 博之  
政策企画課副課長 甲佐 隆志  
政策企画課主任 須堯 陸海
- 7 傍聴者 1人
- 8 議 事 富士見市児童生徒の体力について

### 【星野市長】

皆様こんにちは。令和4年度第2回総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。皆様には、日頃から本市の教育行政の発展のためにご尽力を賜っておりますこと、改めて感謝を申し上げます。

冒頭に、新型コロナウイルスの感染状況をお話いたします。市内の感染者数は、10月は591名、11月は1,965名、12月は昨日までに2,358名の方が陽性となっており、1日平均の感染者数は、11月は66名、12月は124名という状況でございます。

また、ワクチン接種につきましては、BA.4-5対応型ワクチンを、富士見医師会の皆様にご協力をいただきながら接種を進めており、12月18日時点で2万9,348名の方に接種していただいております。1週間当たり約4,000名、12月18日の週は、約5,400名の方に接種していただくなど、大変速いペースで接種にご協力をいただいている状況でございます。今後におきましても、感染対策をしっかりと施しつつ、特に学校におきましては、継続して注意が必要なことであると思っておりますので、これからも取り組んでまいります。

さて、本日の総合教育会議でございますが、「児童生徒の体力について」を議題とさせていただきます。このことにつきましては、コロナ禍以降、長期間の学校の休業もあり、体育の授業なども思うに任せない状況でございました。こうした状況や、様々なデータなどから、本市の小中学校の児童生徒の体力の位置付けがどのようになっているのか、関心を持って見ておりました。小学校におきましては、新体力テストのデータを見ると、県平均から少し下回っている状況でございます。ここ数年は、中学校において県平均以上になっている学校もございますが、長期的には本市の児童生徒につきましては、体力の低下や運動に親しめていないという状況があると感じているところでございます。

こうした状況を踏まえまして、教育委員会の努力や、現場の先生方にもしっかりと課題としてとらえていただいている状況でございます。一例といたしましては、山口教育長をはじめ学校教育課の職員が、立教大学ラグビー部の中村ヘッドコーチに依頼し、学校の先生方にタグラグビーの指導をしていただく取組がスタートしているなど、体力向上に向けた取組を行っていただいております。

こうした現状から、一つの大きなポイントとして、子どもたちの体力の向上を図ることが必要だという、私自身の考えもございまして、本日は担当の学校教育課指導主事の矢場先生から現状や課題を報告し、皆様で議論をいただきたいと考えているところでございます。

結びに当たりまして、まだまだ寒くもなりますし、コロナもまだ収束しておりませんので、お体にはご留意いただきまして、ますますのご活躍、そして教育に関しまして、ご指導いただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

### 【齊藤政策企画課長】

星野市長ありがとうございます。

それでは、以降の進行につきましては、星野市長にお願いさせていただきます。  
星野市長、よろしくお願ひいたします。

**【星野市長】**

それでは会議に移らせていただきます。議事に入る前に、本日の会議録署名委員を指名いたします。会議録署名委員には、山口教育長と深野委員をご指名いたしますので、よろしくお願ひいたします。

本日の議事は、「富士見市児童生徒の体力について」でございます。

冒頭のあいさつの中でも触れさせていただきましたが、児童生徒の体力向上についての概要と、今後の展開につきまして説明をさせていただきます。

それでは、学校教育課、矢場指導主事、お願ひいたします。

**【矢場学校教育課指導主事】**

(富士見市児童生徒の体力について説明)

**【星野市長】**

ありがとうございました。パワーポイントや添付の資料等、よい整理をしていただき、ご説明いただきました。

現状や課題、課題の解決策までお示しいただいておりますので、今後の結果に期待するところでございます。まずは、私から質問をさせていただきたいと思ひます。

その後、各委員の皆様方からご質問、ご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

まず、新体力テストのグラフから令和元年から3年にかけて、コロナによる影響が顕著に表れているということは理解をいたします。それ以前も、本市におけるA+B+Cの平均の点数が、県平均に届かないというような状況もあるわけですが、その原因をどのように考えているのかを確認させていただきたいと思ひます。

**【矢場学校教育課指導主事】**

本市の児童生徒の体力の現状ですが、コロナ以前からも、県平均と比べると低かったという現状があります。その大きな理由としましては、本日紹介させていただいた、富士見市体力向上推進委員会の中で研究を重ねて熱心に取り組んでおりますが、これらが各校のすべての先生に周知徹底できているところには至っていないことであると考えております。本日紹介した富士見スタンダードや、パワーアップチャレンジなどは、すべての先生に取り組んでもらえれば、子どもたちの体力は確実に向上するものであると自信を持っております。これらをすべての先生に周知徹底できていなかったのではないかとということで、今ある取組をより多くの先生に伝わるようにしていく必要があると考えています。

**【星野市長】**

もう一点、中学校では体育専科の先生がおりますので、小学校と中学校での現場における先生方の意識や子どもへの指導法の違いはありますか。

**【矢場学校教育課指導主事】**

中学校では、教科担任が専門的知識を持ちながら体育指導を行っており、1年生から3年生まで系統的に子どもたちを伸ばしていけることから、中学校では体力が高い生徒の割合が多くなっているものと考えます。小学校につきましては、様々な教科を1人の先生が受け持っている現状もあり、体育の教材研究や研修の時間を十分に割けず、中学校の先生と比べると専門的な知識がないまま、授業を行っているという実態もあると考えております。そういったところから、中学校の先生と比べると、意識が若干低くなっているところはあるかと思えます。

**【星野市長】**

次に、運動が「好き・やや好き」の割合についての調査結果ですが、小学校の体育では、ソフトボールやミニバスケットボールをやった記憶はありますが、スポーツは多くはなく、逆上がりや走ることなどの基礎的なものが中心だった印象があります。そこで、タグラグビーなどを小学校で導入し、スポーツから運動に入ることが可能なのかどうか、またそういうことができると、子どもたちの意識のアウトプットも変わってくるのではないかと考えましたが、いかがでしょうか。

**【矢場学校教育課指導主事】**

小学校では、本来のスポーツを簡易化したゲームとして実施するようにしています。中学校のように、本格的なスポーツをいきなり実施してしまうと、ルールが分からない子や、運動能力の高くない子がついていけないため、できるだけ複雑ではない形で実施しています。例えば、サッカーの場合、本来は守りと攻めが入り乱れるような形で展開していきますが、そうではなくて、まずは攻めの時間、次に、守りの時間といった形で、攻めと守りを分けて取り組ませるようにしたり、ゴールやボールの数を増やすことで、苦手な子がシュートを決めるチャンスを増やしたり、コートの中に斜めの線を引き、線を越えて攻めてはいけないといった制限も加えながら、中学校で行うスポーツであるサッカーに、小学校ではやさしいゲームとして接続していくという形で行っています。その中で、苦手な子も様々なスポーツに触れることができ、なおかつ楽しくできるように学校では配慮しています。

**【星野市長】**

あと二点ほど、一点目は、休み時間の外遊びの制限の意味を噛み砕いて教えてほしいのと、体育の授業以外で体力の向上につながるような仕組みや仕掛けがあるのかど

うか。二点目は、パソコンやタブレットが配られ、先生方も十分に活用してもらっていると思いますが、活用事例等があればお願いします。

#### 【矢場学校教育課指導主事】

休み時間の運動の制限については、コロナ禍である1、2年前は、子どもたちが全員校庭に遊びに行ってしまうとかなり密の状態になり、接触が防げないことから、分散して外で遊ばせようという取組はありました。図書室に行ったり、教室で本を読んだり、外で遊んだりなどをうまくローテーションを組むような形で密にならないよう、できる限り工夫しながら運動量も確保していこうということで、学校では取り組んでおりました。授業以外での仕組みは、マラソンカードのような形で、何周したら一マス塗れるといった取組をしている場合もありますし、先ほど説明させていただいた教材教具が自由に使える環境であれば、例えば、タッチをする鬼ごっこではなくて、タグを取り合うような鬼ごっこや、ボールを使った遊びもできると思います。今の子どもたちは、どんな遊びをすればよいのかというアイデアが湧かないこともあるため、教材教具が揃っていると、遊び方のイメージが膨らんでくると思います。一方で、学校の教材教具が十分に揃っていないという現状もあるため、不足していたり、古くなったりした教材教具を整備していく必要があると考えます。

パソコン、タブレットについては、逆上がりやマット運動などの様子を撮影し、それを自分で見て、どこができていなかったのかを考察するために使用しています。また、NHK for Schoolなどのデジタル教材を活用し、アスリートの方とかプロの方のお手本と自分の演技を見比べて、何ができていないのかななどの思考判断につなげるために活用しています。

#### 【星野市長】

それでは、委員の皆様方からもご質問やご意見をいただきたいと思います。

#### 【小野寺委員】

一点目は、運動の好き嫌いの全国と県の平均についての説明の中で、市の独自調査は未実施とありましたが、おそらく各学校は子どもたちの運動の好き嫌いの割合を把握していると思います。各学校が把握していれば、市としても把握できるかと思いますが、いかがでしょうか。運動の好き嫌いは体力向上のための根幹の一部だと思うので、市としても把握した方がよいと思いますし、なぜ把握できないのかという疑問があります。

二点目は、体育環境の整備についての説明は、まさにその通りだと思いますが、本市では注目に値する、校庭の芝生化を行っています。これは大きな体育環境の整備の一つだと思いますが、つるせ台小学校校庭の芝生を整備してから時間が経っていないので、そこまで大きな違いはないかとも思います。もし把握していれば、つるせ台小学校の子どもたちの様子を教えていただきたいと思います。

三点目は、若手教員の体育の指導力についての言及はありましたが、ベテランの先生方の指導力について伺えればと思います。

#### 【矢場学校教育課指導主事】

一点目の運動の好き嫌いの全国調査については、スポーツ庁が学校に対して行う調査であり、学校から直接スポーツ庁に回答が提出されるため、教育委員会では把握していないという認識でありました。各校で把握しているとのことであれば、市としても把握に努め、体力向上推進委員会でも分析をしていきたいと思えます。

二点目のつるせ台小学校校庭の芝生化については、新体力テストの結果等の分析は実施できていないところではありますが、つるせ台小学校の先生方から話を聞きますと、裸足でも校庭を自由に動き回れることや、伸び伸びと校庭に寝転がることができ、友達とも楽しく心をほぐせるなど、良い雰囲気作りにつながっていること、怪我が圧倒的に減ったことなどが挙げられております。校庭が砂の場合と、芝生の場合では怪我の様子が大きく違うというところが先生方のお話からもありました。校庭の芝生化は、体力向上につながるきっかけになるものと捉えておりますので、しっかりと分析をしてまいりたいと思えます。

三点目の先生方の指導力については、各校で任命されている体育主任や体力向上推進員といった先生方が比較的若手の先生が多いという現状から、今回は若手に注目しております。若手の先生方が担当する場合、ベテランの先生方にアドバイスをしにくい現状もあったことから、若手の先生方の指導力の向上を掲げさせていただきました。また、ベテランの先生方が持っている知識や技量は本当に素晴らしいものがあると考えております。一方で、その知識を伝達する機会が少なく、校内研修でも体力を向上させるための研修は、各学校では設定されていないことが多い状況です。今後、先生方の体力に関する意識を高め、学校でも体力を高めようという雰囲気が高まっていけば、校内研修で設定して、ベテランの先生方が若手の先生方を指導する研修を行う学校も出てくると思えます。説明の中でもありましたが、体力向上通信等を通して体力向上の必要性を周知し、ベテランの先生方が持っている素晴らしい技能を、若手の先生方に伝授していくような流れを作っていければと考えております。

#### 【横田委員】

体力向上推進委員会から出されている、富士見スタダードは非常に素晴らしいと思えます。先ほど、先生がお話いただいたように、これをより徹底することで体力は確実に向上するだろうと思えます。逆に言うと、なかなか徹底されていない現状のどこに問題があるのか、ということになると思えます。例えば、A+B+Cの児童生徒の割合を見ますと、小学校の体力が県平均からだいぶ下回っているという状況ですが、裏を返せば、中学校における体育専科の先生が、これだけ数字を引き上げているということになり、素晴らしいことだと思えます。また、この図は、A+B+Cの児童生徒の割合をたすき掛けで見ていくのが正しいと思えます。例えば、平成30年の小学

5年生は79%という数字が出ておりますが、それはおそらく3年後、令和3年の中学2年生と同じ子どもたちだと思われます。小学校から中学校にかけて、これだけの成長をしていることは、特筆すべきものだと思います。そうすると、小学校の水準を上げれば、中学校の水準はもっと高く、県平均よりも伸びていくものと考えられます。そこで、何が問題かという、例えば、45分の1コマの授業の中で、70%以上の運動量を確保する指針を出しておりますが、時間で表すと30分以上と、実際に器具を準備して子どもたちに説明して、45分の中で30分を運動に使えるというのが現実的なのでしょうか。つまり、70%以上の運動量を確保できていないため、小学校の体力が下がっていると受け取った方がよいのではないかと思います。いかがでしょうか。

#### 【矢場学校教育課指導主事】

小学校の体力を上げれば中学校も上がるのではないかとするのは、その通りだと思います。また、30分以上の運動が現実的に可能なかということですが、それを実現するためには富士見スタンダードを熟読し、しっかり頭に入れることが必要であり、すべての先生がしっかりと取り組めば、30分以上の運動量の確保は可能だと考えています。

例えば、富士見スタンダードの導入を見ていただきますと、導入だけでも大変多くのポイントがあります。「(1) 移動はかけ足で素早く行わせましょう」と記載がありますが、「集合」と言った時に、子どもたちが歩いてくる授業をよく見かけます。しかし、先生がメリハリよく「集合」と、ドドーンと太鼓で叩き、子どもたちが走ってきたら、その移動時間は運動時間に変わります。また、ハンドサインを取り入れている学校と取り入れてない学校がありますが、座りましょうではなく、先生がグーを出したらさっと座る場合、3秒で座るか、1秒で座るかでは大きく違うため、ハンドサインが各学校で導入されているのかについても運動量の確保に関わってきます。

また、授業の導入時に服装を必ずチェックすることが決まっていれば、時間はかかりません。しかし、徹底しておらず、今日はチェックするからねと言われてから、裾をしまう場合には無駄な時間がかかってしまいます。富士見スタンダードは大変重要であることを、私も担当として体力向上推進委員に伝えたつもりではありますが、周知徹底を図るのが難しく、今後はより重要視して、すべての先生に伝わるように、通信や推進委員メンバーへの働きかけによって、連携を深めていきたいと思っております。そうすることで、運動量70%をしっかりと確保でき、小学校の体力は上がると信じております。

#### 【横田委員】

富士見スタンダードの導入は素晴らしいと思います。しかし、小学校の体力が経年的に下がっていることを考えた時に、学校の多忙な業務やコロナ禍のため、休み時間に外で遊べないなどの状況もあるとは思いますが、富士見スタンダードの徹底以外に

も、別の角度からもう少し先生方をフォローしていくということも必要なのではないかなと感じています。

#### 【深野委員】

以前、学校を訪問した際に富士見スタンダードがあることや、授業がやりやすいという声は聞いていたので、初めて見ることができ少し感動しました。とても丁寧に書かれており、よいと思いました。難しいことは分からないのですが、歩くことで体力はついてくるものと思っており、通学路の短い小学校よりも、中学校、高校と進学するに従って歩数が増えることで、体力もついていくものと思います。小学生では短縄の宿題があり、毎日ちゃんと親が見ているようにと言われて、寒い日も外で見た記憶がありますが、短縄は体力がつくと思います。

また、人材バンクの方も活用されているようですが、先日、放課後子ども教室で一緒にしたサポーターの方と話した中で、総合体育館で様々な試合が行われていますが、総合体育館から離れている地域もあるので、身近にある小学校の体育館で見られるといいねという話をしていました。小学校の体育館は狭いのでプロではなく学生でも、スポーツを間近で見られたり、一緒にできたりするとやはり違うかなとも思いますので、人材バンクの活用は期待しています。

#### 【矢場学校教育課指導主事】

短縄は持久力や調整力を高めるのにすごく有効であり、小中学校でも音楽に合わせて縄跳びを5分間跳び続けるリズム縄跳びといった運動を実施していると思います。また、よく音読の宿題があったと思いますが、今では各学校の先生方も工夫して、音読の他に、腕立て伏せや腹筋、縄跳びなどの運動を宿題に取り入れ、体力向上に向けて取り組んでいると聞いております。

また、コロナ前は中学校や富士見高校の陸上部の方と連携して、小学校の陸上大会の練習と一緒に参加してもらおうなどの企画をしていましたが、コロナで小中連携などが中断している状況のため、今後もアスリートだけではなく、学生さんともうまく連携をして、小学生が間近で良い演技などを見られるような環境を作っていきたいと思っています。

#### 【深井委員】

富士見スタンダードを先生方だけではなく、子どもたちにも周知して、一緒にやらないと時間短縮はできないと思いますし、クラス全体で取り組んだ方が近道ではないかと思いました。体育の授業の時はこのようにするというのを教え続け、習慣化させることが重要なのではないかと思います。

#### 【矢場学校教育課指導主事】

体育主任や体力向上推進委員の先生のクラスだけが、規律の保たれた授業をして



いるのではなく、学校全体でしっかりと規律が保てているというのがベストであり、富士見スタンダードを基にして、子どもたちと一緒に良い授業とは何かということを考えていくことは必要だと思いますので、今後考えていきたいと思います。

#### 【山口教育長】

担当の矢場先生の持つ危機感と、体力を向上させたいという強い思いには私も賛同しております。一方で、体育の授業は週平均2.7コマであり、実質2時間ほどしかありません。そのうち全体で運動をしている時間を70%確保したとしても、一人ひとりで見たら70%の運動量の確保はかなり厳しく、種目にもよりますが、器械運動、跳び箱、マットや鉄棒は順番を待っている時間が、3分の2以上ありますから、なかなか授業だけで運動量を稼ぐのは難しい状況です。

そのため、体育の授業を充実させ、運動好きになる、運動するきっかけを作る、それを習慣化できるかどうか勝負であり、本日説明があった施策は有効であると私も思っています。しかしながら、ここ10年ほど学校研究の課題は、学力向上やICTの活用にシフトしております。私が現場にいた頃は、小学校でも体育の研究を数年に1回それぞれの学校で行い、全員で体育の研究をしており、研究をすると数値は上がっていました。今後しばらくは、ICTにもっと力を入れていくことになると思われまますので、各学校で体育の研究を行うことは難しいと思います。

それから、中学校と小学校の違いについてですが、中学生になると、鍛えることが目的の運動を行うことができます。生徒たちも理解が進むため、こうすれば体力が上がるということが分かるので、中高生は大人と同様にできると思いますが、小学生は鍛えることだけにシフトすると、目的が分からないことから楽しさが失われてしまいます。そのため、楽しみながら運動し、結果として体力がつく方法で授業を行う必要があるため、中学生よりも小学生の方が難しいところがあります。子どもたちに運動を好きになってもらい、習慣化させるというところを工夫していく必要があると思っています。

また、埼玉県は、県教育委員会も体力向上に力を入れており、すべての学校で新体力テストを実施しているため、全国の中でも体力は高い数値を保っておりますが、一方で、運動好きが少ないという結果もあり、体力は伸ばしているけれども、運動好きが全国より少ないというのは課題だと思っています。

今日のこの会議を一つの契機として、現場が抱えている課題を共有しながら、教職員を追い詰めることなく、私たちが支援をしながら、より充実した体育の授業、体力向上に向けた習慣づくりをしていきたいと思っています。

最後に、富士見市の中学校は熱心に部活動に取り組んでおり、部活動を通じた体力向上は大きな効果があると思います。今後、部活動の時間も制限していく、土日の指導は地域移行するなど、中学生の体力を維持していくために、様々な課題があると思っていますので、今日お話ができたことは、とても意義があったと思っています。ありがとうございました。

【星野市長】

体育の授業で跳び箱やマットの準備をする際、中学校だとクラスに体育委員がいて、先に体育館に行って跳び箱などの準備をしていたかと思いますが、小学校ではどのようにしているのでしょうか。子どもたちに準備をさせることも教育の一環だということもあるかと思いますが、1組が準備して使って、次に2組が使い、最後に3組が使って片付けるというやり方ができれば、もう少し効率的に授業が行えると考えますが、いかがでしょうか。

【矢場学校教育課指導主事】

小学校の学習指導要領では、器具の準備に関しても重要視しているため、授業が始まってから、よく考えたうえで場を設定する、友達と協力をしてマットを持ち上げる、マットの耳をしまうなどを授業の中で行う必要があります。片付けも、先生が監督している授業中、最後まで見届けることとしているため、中学校と小学校では少し事情が異なると考えています。

一方で、1時間目から3時間目までマットを使う場合に、1組が準備して、3組が片付けるというのは効率面ではとても有効だと思いますし、マットや跳び箱の準備には多くの時間がかかるため、学校でよく考えていく必要はあると思います。

【星野市長】

ありがとうございます。

現状の把握や様々なデータから、課題に対する一定の解決策などをお示しいただきました。新たな取組として、NTT東日本や大学と連携して科学的見地から子どもたちの体力を支えていこうということも、拝見させていただきました。

先ほど、教育長からもあったとおり、ICTや働き方改革など、課題が多い状況ではありますが、体力向上については子どもたちの成長に大きく寄与していくものであるため、市長として、ないがしろにはできないと考えておりますので、ご期待を申し上げます。

また、本日ご指摘いただいた各学校のデータや、芝生化したつるせ台小学校の子どもたちへの効果なども含めて、令和5年度の総合教育会議の中で、もう一度この議題を取り扱いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

最後に、教育委員会として体力向上に資する新たな施策の展開や、支援が不足していることを整理した上で、実施計画等で体力向上を図っていくために必要な提案があることを、市長として期待をしておりますのでよろしくお願い致します。

来年度もう一度、体力向上を議題とすることについて、委員の皆様もご同意いただけますでしょうか。

**【各委員】**

全員同意。

**【星野市長】**

委員の皆様からも、ご同意をいただきましてありがとうございます。

以上で本日の議事は終了となりますが、少しお時間を頂戴したいと思います。

小野寺委員が任期満了を迎えられるため、先ほどのセレモニーにおいても、ご挨拶をいただきましたが、総合教育会議としても最後の会議となるため、小野寺委員からご挨拶をいただきたいと思います。

**【小野寺委員】**

8年間、大変お世話になりました。教職を離れてからこういう形で、教育に携わらせていただき、大変ありがたく思っております。富士見市には、教育を本当に大切にしていると感じてきました。これからも、教育委員会も一生懸命頑張りますので、教育委員会へのより一層のご支援を、星野市長をはじめ市長部局の皆様には、お願いをしたいと心から思っています。教育委員を務めたおかげで、色々な方との出会いや経験もさせていただきました。私にとってはとてもよい思い出になりましたし、勉強になったこともたくさんありました。

この経験を活かして、私は三芳町に住んでおりますので、今後は三芳町の地域活動に参加したりしながら活かしていければと思います。何かお役に立てることがあれば、またお手伝いさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。心の中でいつも富士見市の発展をお祈りしておりますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。本当に8年間ありがとうございました。

**【星野市長】**

8年間にわたり教育行政の推進にご尽力を賜り、誠にありがとうございました。

それでは、本日予定しておりました議事は終了いたしましたので、事務局から、連絡事項等があればお願いします。

**【齊藤政策企画課長】**

事務局から1点ご報告がございます。本日の議事録署名委員に指名されております、山口教育長、深野委員におかれましては、議事録ができ次第、ご署名をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和4年度第2回総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。